

平成23年度教育委員会事務点検評価(平成22年度実施事務事業)評価表

1 事務事業の基本事項

		整理番号	18
事務事業の名称	中学校社会体験チャレンジ事業	担当部課	教育委員会 学校教育部 教育指導課
		電話番号	04 - 2953 - 1111 内線 5652
実施期間	平成 13 年度 ~		
総合振興計画における位置づけ	5章 人を育み文化を創造するまちをめざして	実施計画(H22~24)事業名	中学校社会体験チャレンジ事業
	2節 次世代教育の充実		
	1項 教育内容の充実	個別計画等の名称	
	1目 特色ある学校づくりの推進		
実施根拠			
事業区分	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務 <input type="radio"/> 法定受託事務+自治事務		
事業開始の背景等	子ども達を取り巻く環境が変化の中で、勤労観や職業観の不成熟さや社会性の欠如等により、ニートやフリーター、早期離婚者が増加するなどの問題がおきている。このため、子ども達に正しい職業観や勤労観、社会性を身につけさせることが急務となっている。		

2 事務事業の目的・内容

目的	学校・家庭・地域社会が連携し、生徒に正しい勤労観や職業観、社会性を身につけさせるために、社会体験事業を実施する。
対象	全中学校
活動内容	進路・キャリア教育の一環として行われる体験活動。勤労観、職業観の形成、自己の可能性や適正の理解、学ぶことの意義の理解と学習意欲の向上等をねらいとする。地域の事業所において、事前事後学習に加え、事前訪問をふくむ4日間の体験を9校3450人が行った。
(下段)前年度の方向性に対する改善活動	(前年度方向性評価) <input checked="" type="checkbox"/> 継続
環境配慮	各事業所に生徒が赴くことで、活動先の環境配慮を学び、学校で活用できるものを取り入れる。
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・負担 <input type="checkbox"/> その他()

3 事務事業の実施状況と成果

区分	指標名	区分	単位	20年度	21年度	22年度	23年度	目標値の根拠・考え方
(活動状況指標)	中学校社会体験チャレンジ事業の実施校数	目標値	校	10	10	10	10	全中学校10校で実施する
		実績値		10	9	9		
	達成率		100.0%	90.0%	90.0%			
	達成率							
(成果指標)	中学校社会体験チャレンジ事業への参加率	目標値	日		3	3	3	参加生徒一人あたりの平均参加日数(全参加延べ日数/参加生徒)
		実績値			3	4		
	達成率		100.0%	133.3%				
	達成率							

4 事業費

		区分	単位	20年度	21年度	22年度	23年度	
経費	直接費	予算額	千円	350	350	350	350	
		決算額	千円	439	443	397		
		財源内訳	国県支出金	千円		45	85	
			その他特定財源	千円				
	一般財源		千円	439	398	312		
	人件費	従事職員数	人	0.07	0.07	0.07		
		人件費(従事職員数×平均給与)	千円	642	644	629		
		事業費計(直接費決算額+人件費)	千円	1,081	1,087	1,026		
効率性指標	指標名	チャレンジ事業実施校数	校	10	9	9	※1単位当たりの経費	
	単位コスト	実施1校当たり経費	円	108,100	120,800	114,000		

5 事務事業の評価

◆第一次評価(担当課による評価)

項目	評価の視点	評価	評価理由
個別評価	必要性	4 前年度	様々な事業所での社会体験活動や人々との触れ合いは、社会性や自立心、正しい勤労観や職業観を育成する上で効果的であり、実施することの必要性は高い。
	有効性	4 前年度	全中学校で実施することができ、直接的な効果とともに、中学校の生徒を地域社会が受け入れることにより、学校と地域との連携が深まり、開かれた学校づくりにも寄与することができた。
	効率性	4 前年度	教職員が各事業所と連携調整を図るとともに、事業所の協力も得て、経費も最小限に留め、効率的に実施することができた。今後も、より多くの事業所の協力を得ていきたい。
<5段階評価> 5:極めて高い 4:高い 3:普通 2:低い 1:かなり低い			
今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 内容の見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了		
現在の内容に工夫と改善を加えながら継続する。			

6 その他(学識経験者の意見等)

社会体験活動の重要性は高いが、中学校段階だけで実施するのではなく、小学校や高等学校、大学と連携し、さらに、地元企業等との連携協力が必要になる。中学生が社会体験するだけに終わらせるのではなく、関わった人や組織が成長でき、教育力を発揮できるような仕組みを作ることが求められる。また、各学校には家庭・地域との調整役を専門とする人材の配置などを検討することも求められよう。学歴社会の崩壊が明確になった今、最も必要なキャリア教育の一環として充実を望みたい。教育指導課だけではなく、教育委員会の他部局、首長部局等、総力を挙げて学校に協力を望みたい。また、この事業に、「地域(狭山市)」という視点を盛り込むことも希望したい。「郷土愛」などという標語ではなく、生徒が狭山市を知り、そこに生きる意味を見出すことが出来れば、狭山市の将来発展に必ず寄与するだろう。